

人が主役で、 だれもが快適に移動できるまちにしたい

3 移動

(1) 便利で快適に移動できる公共交通機関の整備を

○私たちは、車と共存し、高齢者、子ども、障害を持った人など、だれもが快適に移動できる、便利で地球環境にも優しい交通環境をつくりたいと思います。移動する手段として、公共交通と車のバランスを考え、車に依存し過ぎることで起きる、渋滞や地球環境の汚染をできる限りくい止めたいと思います。車に乗る代わりに、便利で快適な公共交通機関を利用したいと思います。そのために、低料金で分かりやすく、ネットワークが充実した公共交通網が必要です。

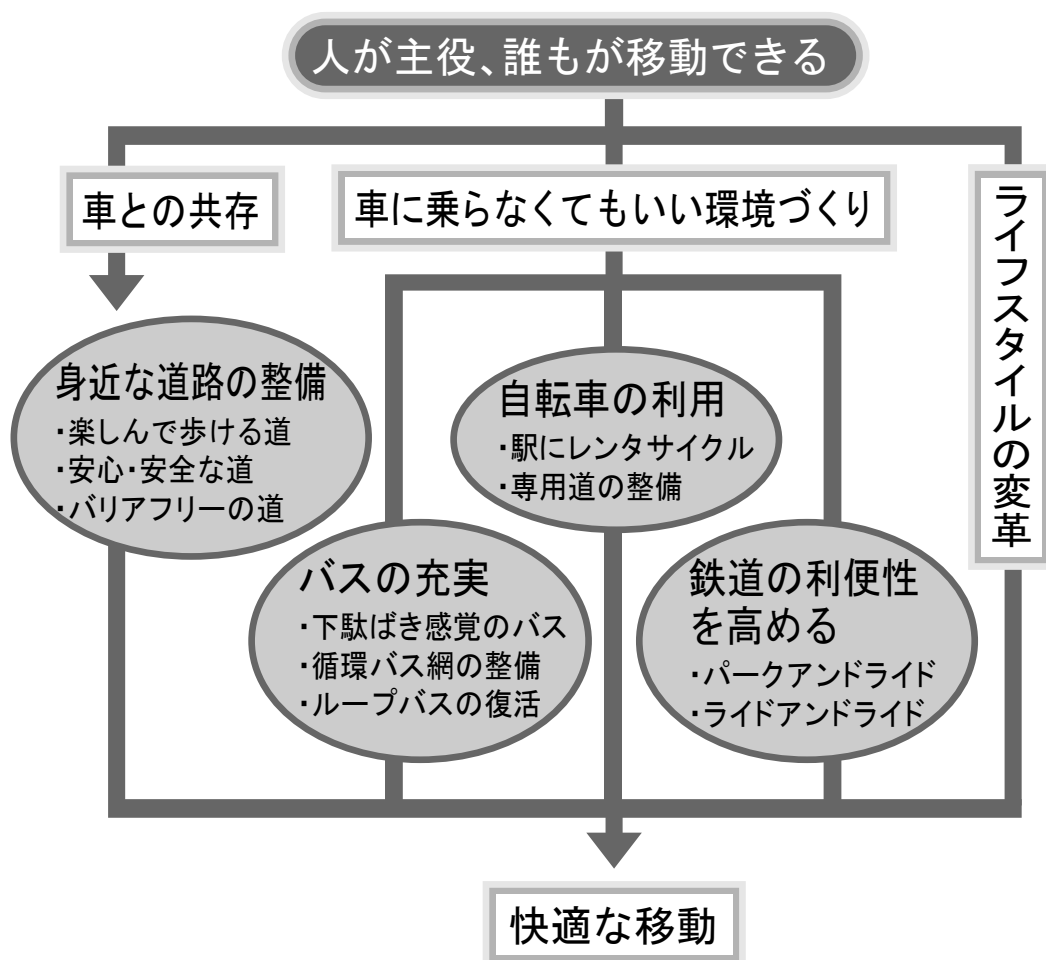
○バスについては、市内循環バスや休日に文化施設を中心に巡るバス、中心市街地を巡回するループバスなど、新しいバス網や低料金で、おしゃれで魅力的で、下駄ばき感覚で乗れるバスが必要だと思います。

鉄道では、その利便性を高めるために、バス・自転車と電車の乗り換えなどがスムーズにできるように、パークアンドライドやライドアンドライドの交通結節機能や環境を整備することが必要だと思います。また、朝の混雑時にはピッチを細かくしたり、車両を増やしたりして、快適性や利便性を高めることも必要です。



○個人経営バス会社の参入といったことに代表される、新しい仕組みも考えられます。渋滞緩和には、コミュニティ内で乗り合いするという方法も考えられます。

○車に依存せず、公共交通機関を活用する社会をつくるためには、私たちのライフスタイルや価値観を変えることが必要だと思います。無理をしなくても公共交通機関が利用でき、車に依存しなくても良い環境づくりが必要だと思います。



(2) 自転車専用、バリアフリーなど新しい道を

○自転車は、公害もなく、健康にも良い有効な交通手段ですから、自転車が安全に通行できる歩道や専用道の整備が必要です。主要駅にレンタサイクルを置くのも有効です。

○移動には道路も必要ですが、車依存になりすぎないように心掛ける一方で、楽しんで歩ける道づくり、安全・安心でバリアフリーな道づくりが必要です。歩道があることはもちろん、自転車専用道路など新しい道のあり方を検討する必要があります。幹線道路をつくるだけで渋滞が解消されるわけではありませんが、渋滞緩和やバス網の充実のため、幹線道路の早期整備も必要です。

